

## 特集①

# オンライン授業に関するアンケート調査 2021

専修大学では、オンライン授業や感染対策について、学生の状況や現在抱えている困難や不満を調べるために「オンライン授業に関するアンケート調査」を、6月28日（月）～7月12日（月）に実施しました。前年度に続く2回目の調査で、アンケート回答を集計・分析した結果は、現状の改善、新たな対応策の参考にされます。以下に、調査結果を掲載いたします。



## 主な知見

- 専用パソコンの使用率が上昇し、9割以上の学生が使うようになった。
- オンライン授業への評価は、メリットの選択率が上昇し、デメリットの選択率が減少した。メリットは学修効果を高める実質的な利点への評価が向上した。デメリットは課題の多さや理解度などに改善が見られた。昨年度も含めてメリットの選択率はデメリットの選択率よりも総じて高い。オンライン授業は総合的に見て好意的に評価されており、その評価は昨年度と比べてもさらに向上している。
- 授業形態ごとの対面/オンライン希望は、「講義」と「語学」でオンライン希望が多く、「ゼミナール・演習・プロジェクト」、「実験・実習」、「スポーツ実技」で対面希望が多い。
- 本学の感染症対策の程度は、適切である（＝厳しすぎも緩すぎもしない）との評価が約半数を占める。感染リスクを気にする学生ほど感染症対策が緩すぎると感じる傾向がある。
- キャンパス内で授業以外におこないたい活動としては、「友人との交流」を半数以上が選択していることに加え、「図書館での自習」（時間制限の緩和）と「部活・サークル活動」も4割程度の学生が選択している。

## 注意を要する点

- スマートフォンしか使っていない学生が、全学で250人程度残っていると推定される。
- 学外の従量制回線ではか受講していない学生が、全学で830人程度残っていると推定される。
- 総合的な通信状況には大きな改善はない。8人に1人程度の学生（全学で2,200人程度）が依然としてストレスの多い環境でオンライン授業を受講している。こうした学生が常に存在することを念頭においた授業運営上の工夫が求められる。
- 授業形態ごとの対面/オンライン希望では、講義でも対面を希望する者や、ゼミナールや実習等でもオンラインを強く希望する者など、全体的な傾向とは異なる希望を持つ者も無視できない割合で存在する。
- 「やる気が出ない」、「気分が滅入る」といった精神的な不調や、「今の自分の学修方法でよいか」、「友人ができない」といった学修上・学生生活上の悩みを抱える学生が半数近くに達している。

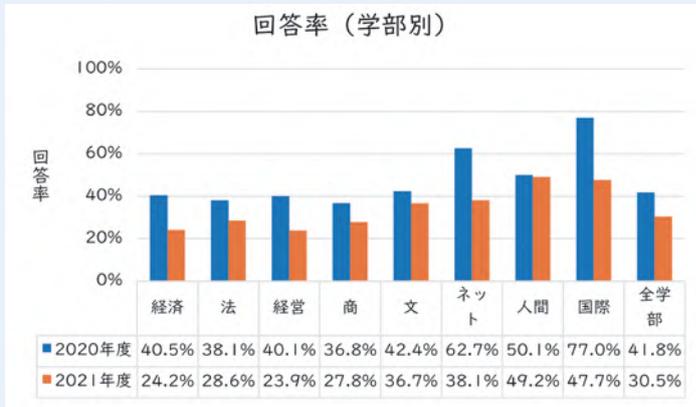
## 実施概要

対象：2021年6月27日時点で専修大学に在籍する全学部学生（二部を含む、16,845名）

方法：Google Formsによるオンライン調査

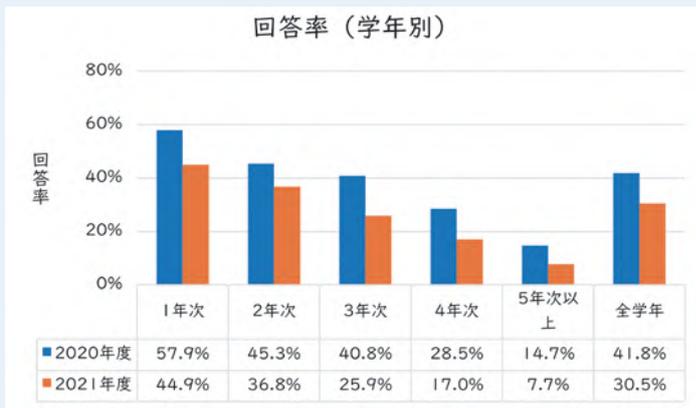
回答可能期間：2021年6月28日（月）～7月12日（月）

回答状況：回答者5,136人、回答率30.5%



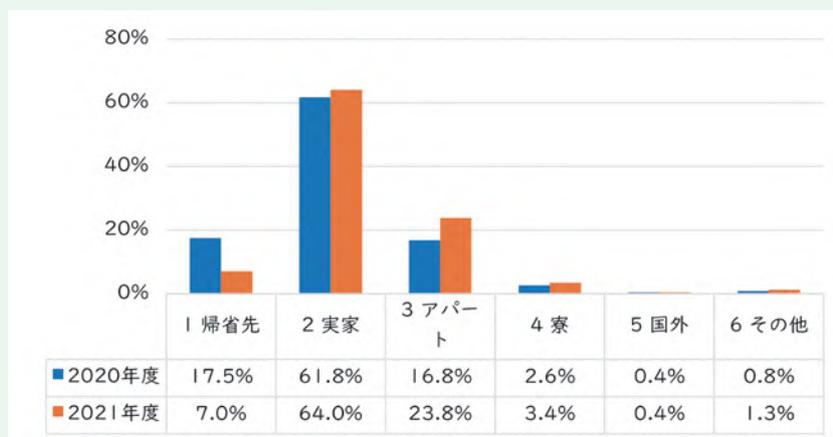
2021年度アンケートの回答者数は5,136人、回答率は30.5%であった。2020年度アンケートは回答者数7,307人、回答率41.8%だったので、約10ポイント低下した。

学部別では、人間科学部（49%）と国際コミュニケーション学部（48%）がやや高く、経営学部（24%）と経済学部（24%）がやや低い。学年別では、1年次（45%）から5年生以上（7%）まで、学年が上がるほど単調に減少する。



## Q1 現在の居住環境

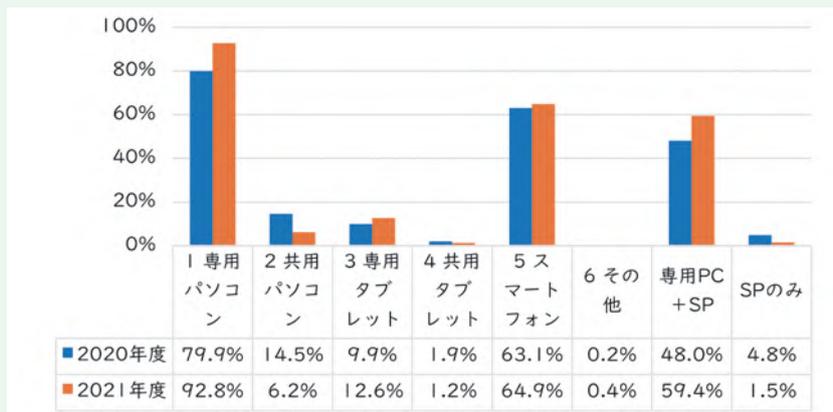
あなたは現在、どこに住んでいますか。（単一回答）



「通学範囲内の実家」（64%）が最も多く、「一人暮らし（アパートなど）」（24%）がそれに次ぐ。2020年度に18%だった「帰省先の実家など」は2021年度には7%と半分以下に減少している。対面授業の一部再開により、帰省先の実家に滞在していた学生の一部が大学近くのアパートなどに移動したと推察される。

## Q2 受講機器

オンライン授業を受講する際に使用している機器を、すべて選んでください。(複数回答)



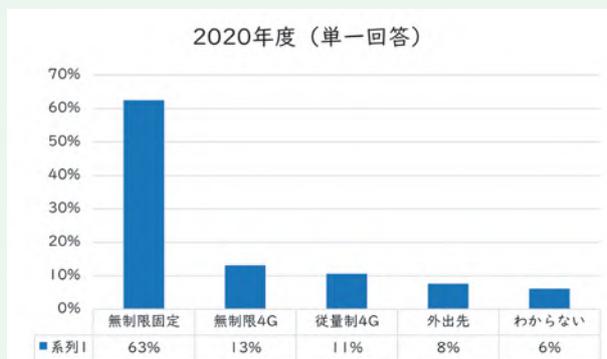
「オンライン授業を受講する際に使用している機器」を複数回答で尋ねた。「自分が自由に使用できるパソコン」(93%)が最も多く、「スマートフォン」(65%)がそれに次ぐ。専用パソコンとスマートフォンの両方を使っている学生が59%いる一方で、スマートフォンしか使っていない学生は1.5%(75人)である。

2020年度と比較すると、専用パソコンの使用率が80%から92%、専用パソコンとスマートフォンの併用が48%から59%と、いずれも10ポイント程度ずつ上昇した。また、スマートフォンしか使っていない学生も4.8%から1.5%に減少した。専用パソコンやタブレットを確保する動きが進んできたと考えられる。

一方で、スマートフォンしか使っていない学生が少数とはいえ存在すること(回答率30%をふまえて単純に推定すると、 $75 \div 0.3$ で全学に約250人)には注意が必要だろう。

## Q3 受講環境

今年度、オンライン授業の受講に使ったことのあるインターネット環境を、すべて選んでください。



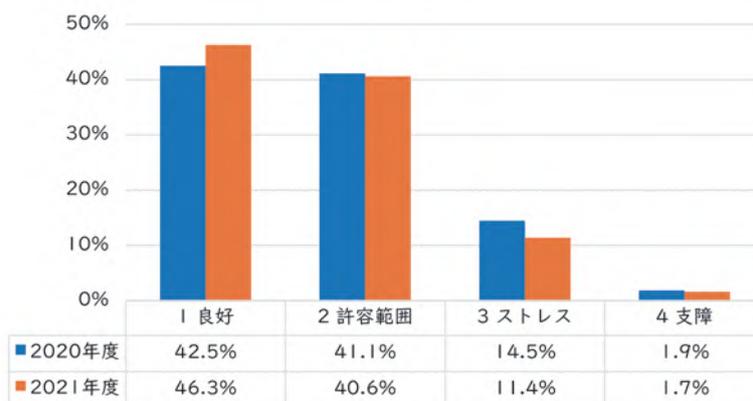
「今年度、オンライン授業の受講に使ったことのあるインターネット環境を、すべて選んでください」という設問を用いた。2021年度は学内外のさまざまな場所でオンライン授業を受講していることが想定されたためである。「大学の無線LAN」で受講したことのある人は75%であり、裏を返すと25%の学生は学内でオンライン授業を受講した経験がない。学外で受講する場合、「通信料金を気にせず使える環境」で受講したことのある人が79%、「通信料金を気にしなければならない環境」で受講したことのある人が34%である。

一方、学外の「通信料金を気にしなければならない環境」でしか受講したことのない人は5%(250人)存在する。回答率を踏まえて単純に試算すると $250 \div 0.3$ で、全学で830人程度こうした学生がまだ残っている可能性がある。どのような属性の者が多く、どのような科目を履修しているのかなど、詳細な分析が必要だろう。

2020年度は選択枝や回答形式が異なるため単純な比較はできないが、従量制回線で受講していた人が11%、外出先で受講していた人が8%存在した。2021年度に従量制回線でしか受講できない学生が5%に減少した要因として、対面授業の登校日に大学の無線LANでも受講するようになった学生が一定数いることも考えられる。

## Q4 通信状況

オンライン授業での通信環境や通信状況で一番近い状況は、次のどれですか。(単一回答)

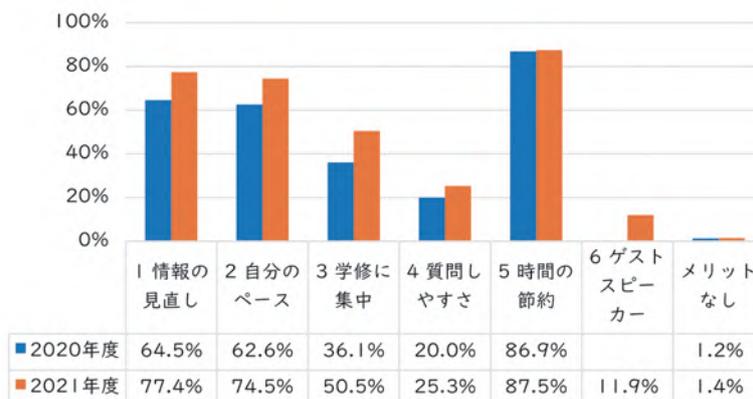


「オンライン授業での通信環境や通信状況で一番近い状況は、次のどれですか」という質問に対し、「特に困ったことはない」(46%)と「時々途切れたり、通信が遅くなることがあるが、がまんできる」(41%)がほぼ拮抗し、合わせて全体の9割弱を占める。「しばしば途切れたり、通信が遅くなるなど、ストレスを感じる」(11%)と「通信量に上限があるなど通信環境が悪くて、受講に支障をきたしている」(1.7%)は8人に1人程度である。これは回答者数にして671人なので、全学では2,200人程度と推定される。まったく同じ形式で質問した2020年度と比較すると良好が若干増え、ストレスが若干減ったものの、分布全体の形状はほぼ変わっていない。

あまり改善が見られない理由としては、学内も含めてさまざまな場所で受講する機会が増えたことにより電波状況や混雑度の変動の影響を受けやすくなったことや、自分の側の通信状況には問題がなくても教員を含めた他の参加者の通信状況に問題があれば結局スムーズには通信できないといった技術的な問題が考えられる。

## Q5 オンライン授業のメリット

オンライン授業を受講してみて、あなたがメリットと思うことを、すべて選んでください。(複数回答)

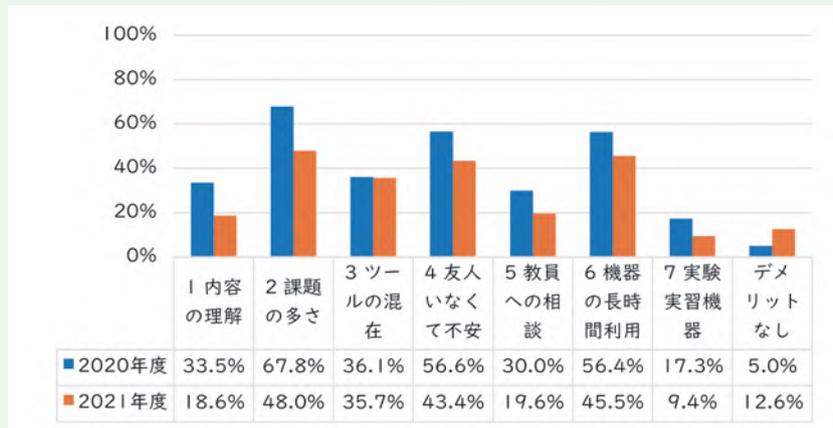


複数回答形式で尋ねた。「通学や校舎内の移動の時間をはぶくことができる」が88%で最も多く、「音声を聞き返したり、資料を見直したりでき、予習・復習がしやすい」(77%)と「自分のペースで勉強ができる」(75%)も約4分の3の学生が選択している。「まわりを気にする必要がないため、学修に集中しやすい」(51%)も約半数の学生が選んでいる。「メリットは何もない」はわずか1.4%に過ぎず、ほぼすべての学生がオンライン授業に何らかのメリットを感じていることがわかる。

2020年度と比較すると、各項目の相対的な順位は変わらないものの、「時間の節約」以外のすべての項目で選択率が5～15ポイント程度上昇している。「時間の節約」がオンライン授業の自明な利点なのに対し、「情報の見直し」、「自分のペース」、「学修に集中」、「質問しやすさ」といった今回上昇した項目は、オンライン授業の教育上の利点と言える。オンライン授業が定着するにつれ、こうした学修における実質的な意義への評価が上昇していることが読み取れる。

## Q6 オンライン授業のデメリット

オンライン授業を受講してみて、あなたがデメリットと思うことを、すべて選んでください。(複数回答)

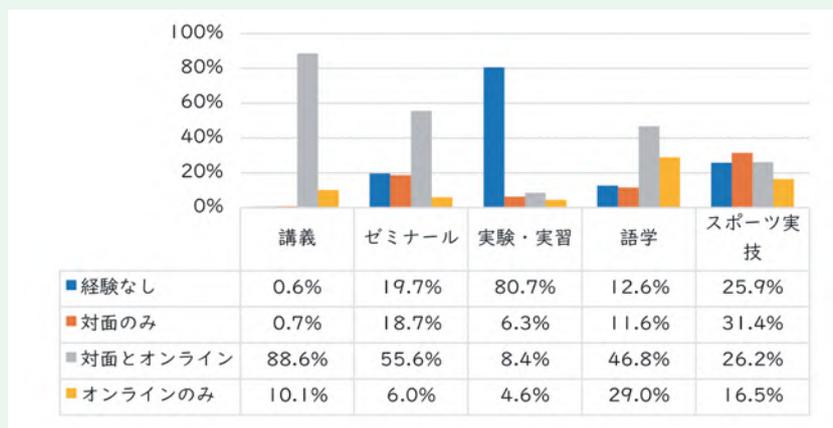


複数回答形式で尋ねた。「課題が多すぎたり、提出期限に間に合わなかったりする」(48%)、「長時間にわたり端末機器を使用しなければならない」(46%)、「まわりに友人・知人などがいないので、不安を感じる」(43%)が多いのは2020年度と同じ傾向だが、選択率はいずれも10～20ポイント程度下がっている。昨年度と比べて特に減少幅が大きいのは、課題の多さ(68% → 48%)と内容の理解(34% → 19%)であり、教員の授業運営方法の改善や学生のオンライン授業への順応が進んだことが原因として考えられる。「デメリットは何もない」が昨年度の5%から13%に増えたことも、オンライン授業の評価が向上していることを示唆するだろう。

なお、Q5のメリットの各項目の選択率と比較すると、Q6のデメリットの各項目の選択率は概して低いことにも注意が必要である(これは2020年度も同様である)。オンライン授業は総合的に見て好意的に評価されていると判断することができるだろう。

## Q7-1 各授業形態の受講経験

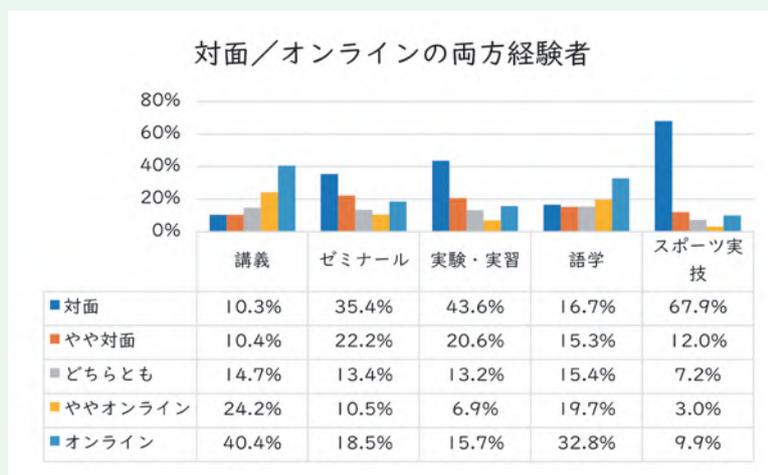
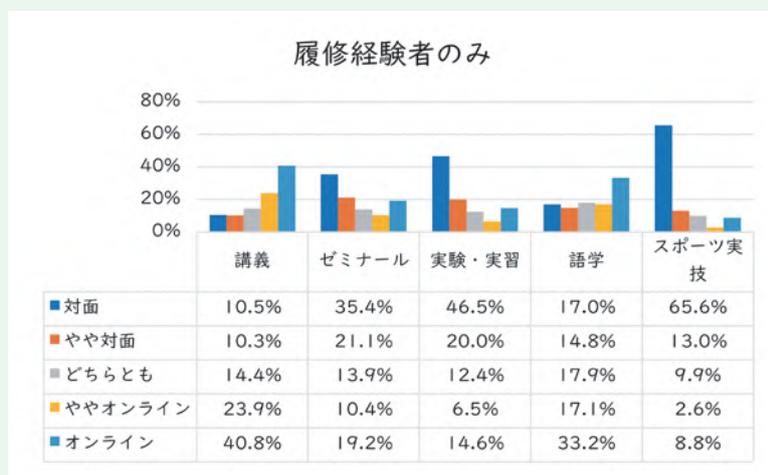
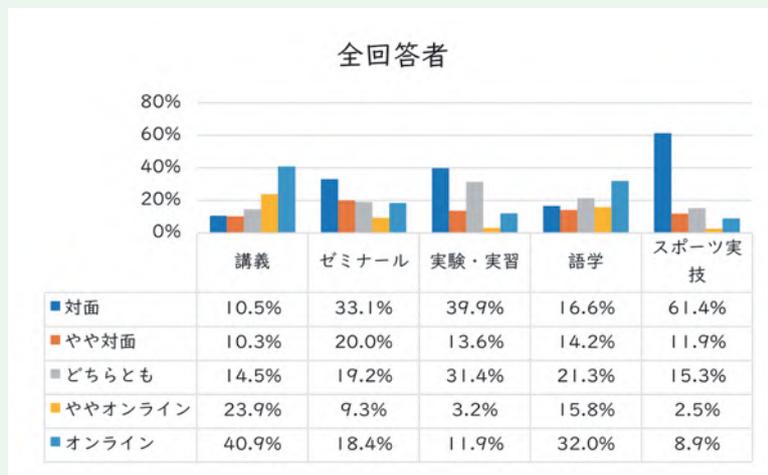
以下の授業について、あなたはこれまで「専修大学で」どの開講形態を実際に体験しましたか。(各単一回答)



Q7-2で「対面とオンラインのどちらがよいと思うか」を5つの代表的な授業形態ごとに尋ねる前提として、それぞれの授業形態の専修大学での受講経験を尋ねた。「講義」は「対面とオンラインのどちらも体験」が9割、「オンラインのみ体験」が1割であった。「ゼミナール・演習・プロジェクト」は「対面とオンライン」が最も多く56%、ついで「この種類の授業は履修したことがない」(20%)、「対面のみ体験」(19%)であった。「実験・実習」は「経験なし」が約8割を占める。「語学」は「対面とオンライン」(47%)が最も多く、「オンラインのみ」(29%)も他の形態と比べて比較的多い。「スポーツ実技」は「対面のみ」(31%)、「対面とオンライン」(26%)、「経験なし」(26%)がほぼ拮抗している。

## Q7-2 各授業形態の対面／オンライン希望

以下の授業について、あなたは対面とオンラインのどちらがよいと思いますか。(各単一回答)



各授業形態への対面／オンラインの希望を、授業形態の体験の有無に応じて「すべての回答者」「履修経験者のみ」「対面とオンラインの両方の履修経験者のみ」の条件で集計した。ほぼすべての学生が履修経験をもち、9割近い学生は対面とオンラインの両方を体験している「講義」を除く他の4つの授業形態では、経験者を絞り込むにつれて「どちらともいえない」が減少し、対面もしくはオンラインのどちらかを志向する回答が増加する。経験していない授業形態についての判断はむずかしいから、これは当然の傾向であろう。

そこで、最も的確な評価に近いと考えられる対面／オンライン経験者の分布を確認しよう。

「講義」は「オンラインがよい」(40%)と「どちらかといえばオンラインがよい」(24%)を合わせるとほぼ3分の2となり、オンライン希望が強い。一方で、「対面がよい」と「どちらかといえば対面がよい」も合わせて21%存在し、講義であっても対面を希望する学生が無視できない数存在することに注意が必要である。

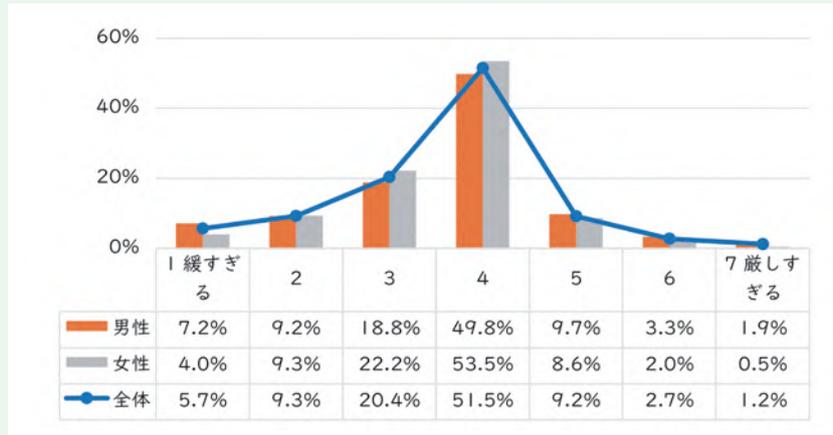
「ゼミナール」と「実験・実習」は「対面」と「どちらかといえば対面」との合計がそれぞれ58%と64%であり、対面希望が強い。ただし、いずれも「どちらかといえばオンライン」と比べて「オンライン」がむしろ多くなっており、オンラインを強く希望する学生が一定数(講義で対面を希望する学生の総数と同程度)存在することには注意を要するだろう。

「語学」は他の授業形態に比べて評価がばらばらだが、どちらかといえばオンライン希望が強い(「どちらかといえばオンライン」と「オンライン」を合わせて52%)。

「スポーツ実技」は、「対面」が68%と圧倒的である。

## Q8-1 本学の感染対策への評価

本学の新型コロナウイルス感染症対策全般についてどう感じますか。(単一回答)

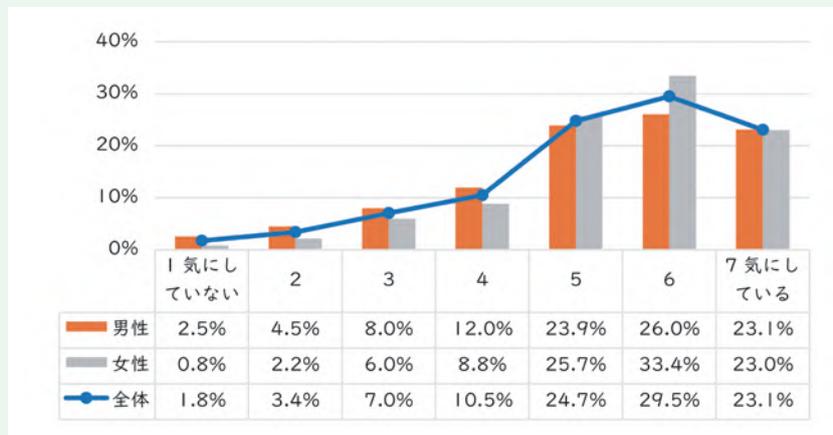


「本学の新型コロナウイルス感染症対策全般についてどう感じますか」という設問で、「1 緩すぎる」から「7 厳しすぎる」までの7段階の選択肢を設けた。最も多いのは中間の「4」で、約半数（52%）の学生がこれを選んだ。選択肢のラベルの意味に照らすと、「緩すぎず厳しすぎず適切である」と評価していると解釈することが可能だろう。ただし、1段階「緩すぎる」寄りの「3」を選んだ者も20%おり、全体としても「厳しすぎる」側よりも「緩すぎる」側に分布がやや寄っている（平均は3.62）。基本的には適切と評価しているが、やや不安が残ると感じている学生が一定数存在することが推察される。

なお、男女で分布に大きな差はないが、強いて言えば男性は女性と比べて両端寄りの回答をする傾向がみられる（標準偏差は女性 1.01 に対して男性 1.21）。

## Q8-2 感染リスクへの不安

あなたは新型コロナウイルスへの感染リスクをどれくらい気にしていますか。(単一回答)



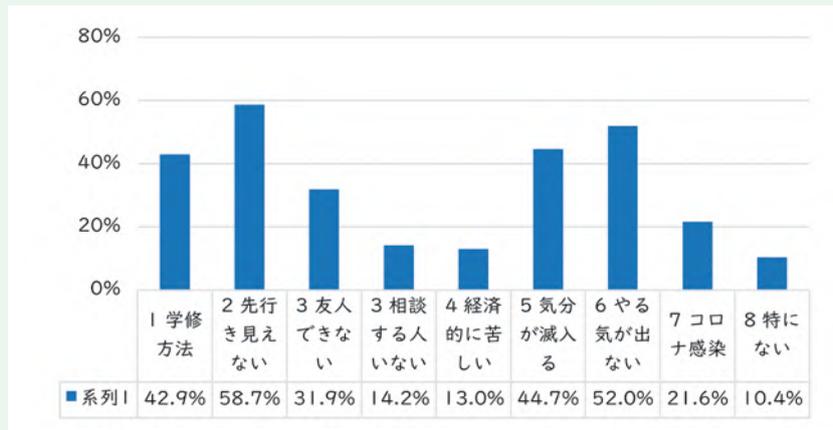
感染対策への評価には感染リスクへの不安も関係するかもしれないとの予想に基づいて、「あなたは新型コロナウイルスへの感染リスクをどれくらい気にしていますか」を「1 気にしていない」から「7 気にしている」の7段階で尋ねた。最も多かったのは「気にしている」側の端から2番目の「6」で、全体の30%の学生が選択した。ついで多かった「5」と「7」を合わせると、全体の約8割の学生が「気にしている」寄りであった（平均5.34）。

感染リスクへの不安には男女差が見られ、女性の方が「気にしている」割合が高かった（平均は男性 5.21 女性 5.49、標準偏差は男性 1.55 女性 1.29）。

Q8-1の感染対策への評価とQ8-2の感染リスクへの不安との相関係数は $-0.272$ であった。つまり、感染リスクを「気にしている」学生の方が感染対策を「緩すぎる」と感じる傾向があった。論理的には順当であろう。なお、この2つの設問の相関係数を男女別に見ると男性 $-0.286$ 、女性 $-0.250$ であった。つまり、男性の方が、感染リスクへの不安と感染対策への評価との関連がやや強い。

## Q9 悩みや不安

コロナ禍の大学生活で、あなたが悩みや不安に思うことを、すべて選んでください。(複数回答)



「コロナ禍の大学生活で、あなたが悩みや不安に思うこと」を複数回答形式で尋ねた。最も多かったのは「就職活動、留学、課外活動などの先行きが見えないこと」(59%)で、約6割の学生が選択した。ついで「何となくやる気が出ないこと」(52%)、「何となく気分が減入ること」(45%)といった精神的な不調も、約半数の学生が経験している。「今の自分の学修方法でよいのかどうか」(43%)、「親しい友人ができないこと」(32%)といった、まわりに友人がいない環境で学修活動をおこなうオンライン授業に起因すると思われる悩みを訴える学生も目立つ。いずれも、決して軽視できない人数の学生が現に抱えている問題であることに注意が必要だろう。

## Q10 時限ごとキャンパス入構者数

6月21日から26日までの週で、あなたが授業やその他の活動で神田または生田キャンパス内にいた曜限をすべて選んでください。(複数回答)

「6月21日から26日までの週で、あなたが授業やその他の活動で神田または生田キャンパス内にいた曜限をすべて選んでください」という質問への回答を回答者の所属キャンパスごとに集計した。各キャンパスへの1日あたり入構人数の目安が適切に機能しているかどうかを確認するためのものだが、正確な推定のためには今後、学年や学部ごとの回答率を考慮した補正が必要である。

### 神田キャンパス

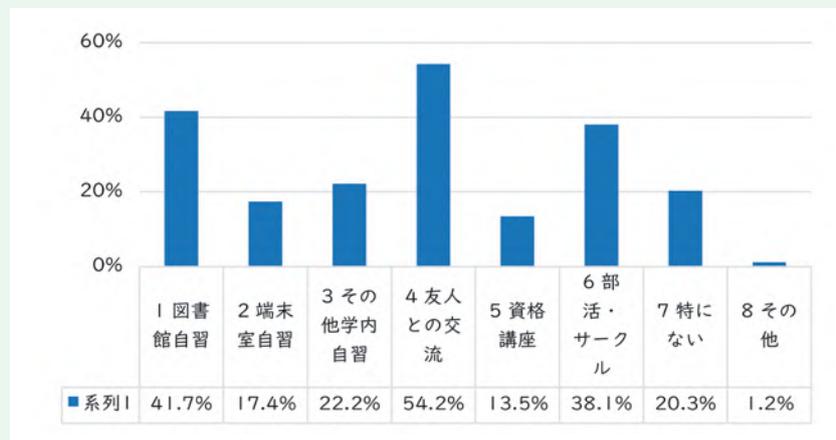
| 曜限  | 月   | 火   | 水   | 木   | 金   | 土   |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1限  | 276 | 179 | 345 | 397 | 356 | 98  |
| 2限  | 386 | 250 | 593 | 564 | 625 | 118 |
| 昼休み | 321 | 168 | 543 | 420 | 449 | 103 |
| 3限  | 384 | 220 | 684 | 455 | 479 | 68  |
| 4限  | 291 | 217 | 534 | 364 | 320 | 39  |
| 5限  | 146 | 127 | 312 | 221 | 165 | 23  |
| 6限  | 40  | 113 | 119 | 47  | 71  | 4   |
| 7限  | 28  | 102 | 106 | 25  | 59  | 3   |

生田キャンパス

|     |     |     |     |     |     |    |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 1限  | 216 | 587 | 404 | 397 | 527 | 64 |
| 2限  | 554 | 967 | 776 | 921 | 859 | 83 |
| 昼休み | 447 | 485 | 677 | 800 | 714 | 91 |
| 3限  | 534 | 388 | 772 | 860 | 807 | 94 |
| 4限  | 469 | 279 | 633 | 778 | 604 | 58 |
| 5限  | 261 | 176 | 317 | 435 | 237 | 20 |
| 6限  | 31  | 88  | 105 | 157 | 86  | 7  |
| 7限  | 11  | 17  | 23  | 21  | 25  | 3  |
|     | 月   | 火   | 水   | 木   | 金   | 土  |

## Q11 入構制限下のキャンパス内でおこないたい活動

現在の入構制限等の状況で、授業時間外にキャンパス内でおこないたいと思う活動をすべて選んでください。(複数回答)



「現在の入構制限等の状況で、授業時間外にキャンパス内でおこないたいと思う活動」を複数回答形式で尋ねた。最も多かったのは「友人との交流」(54%)で、過半数の学生が選択した。ついで、「図書館での自習」(42%)、「部活・サークル活動」(38%)も少なからぬニーズが存在する。一方、「特にない」も約2割存在した。「その他」の自由記述に「すぐに帰宅したい」という趣旨の回答が散見されたことと合わせて、そのような志向をもつ学生も一定数存在することにも注意が必要だろう。

